

令和4年度 里親月間記念講演会 『里親の魅力』



令和4年10月15日(土)
アイセル21
(静岡市女性会館)
1階 ホール
13:00 ~ 15:00

絵:あいら あおい

主催/静岡県・静岡市・浜松市・静岡県里親連合会・静岡市里親会・浜松市里親会 協力/NPO法人静岡市里親家庭支援センター
後援/静岡県社会福祉協議会・静岡市社会福祉協議会・浜松市社会福祉協議会・静岡県民生委員児童委員協議会・静岡市民生委員児童委員協議会
浜松市民生委員児童委員協議会・静岡県児童養護施設協議会・静岡県乳児院協議会・静岡県児童家庭支援センター協議会

令和4年度 里親月間記念講演会

日時 令和4年10月15日(土)
場所 静岡市女性会館アイセル2 1
1階 ホール

次 第

1 開 会 (13:00)

挨拶 静岡県里親連合会会長 大石 正巳 氏

静岡県こども未来局局長 高橋 真一朗 氏

2 基調講演 (13:10)

演 題 「里親の魅力」

講 師 社会福祉法人麦の子会

理事長 北川 聡子 氏

3 質疑応答

4 閉 会 (15:00)

挨拶 静岡市里親会会長 眞保 和彦 氏

基調講演

演題 「里親の魅力」

講師 北川 聡子 氏 ((福)麦の子会 理事長)

【プロフィール】

社会福祉法人麦の子会理事長・総合施設長。公認心理師。アライアント国際大学・カリフォルニア臨床心理大学院日本校修了。

遺愛女子高等学校在学中に福祉の道を志し、1983年に北星学園大学文学部社会福祉学科卒業と同時に仲間4人と共に、障がいのある子どもたちが毎日通える場として無認可で「麦の子学園」をスタート。1996年に社会福祉法人として認可を受ける。

子ども達や家族の困り感に寄り添い、地域で暮らすためのニーズに応える中で、現在は児童発達支援センターを中心に1km圏内に乳幼児期から成人期まで支援する57の事業所を設立。「子育ての村」を作り上げた。

発達支援・家族支援・相談支援・地域支援の四つを柱に専門的な支援を行っている。

その他、「札幌市里親会理事長」「日本ファミリーホーム協議会会長」「日本知的障害者福祉協会副会長」「内閣府障害者政策委員会委員」「厚生労働省社会保障審議会児童部会委員」など、地域や国と連携し福祉の現場に長年携わっている。

2021年11月には、日経BP社日経ウーマン主催「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2021 子育てダイバーシティ賞」を受賞。

書籍

『子育ての村ができた！ 発達支援、家族支援、共に生きるために』

(福村出版)2020年

『子育ての村「むぎのこ」のお母さんと子どもたち』

(福村出版)2021年

里親の魅力

日本ファミリーホーム協議会会長 /
札幌市里親会会長 北川聡子

里親を始めたきっかけ

- 札幌にあるむぎのこ児童発達支援センターに通園していた子どもがお母さんがすきのお子に連れて行ったりしていた家庭子どもが一時保護になり、急に目の前から消えた。
- 周りのお母さんも同級生もびくびくしてしまったり。
- 少しでも早く施設に行くことと一時保護所に行っていた。
- 帰りに、子ども達みんなも号泣して別れてた。
- こんな悲しい事一お母さんに支援がないのに、子どもを育てられないと決めた。お母さん一人でお母さん一人を呼び止めてあげたい。
- 「あなたが里親になって子どもを地域に戻してあげたい」
- 「里親になりましょう。」と里親の係長さん

3人の子どもを育てる

- その子たちは11.8歳まで施設でお世話になって、今お姉ちゃんむぎのこで働いています。
- 3歳のSちゃんとの出会い。連れて来たのは若き日の今の里親の課長さん。お母さんが重い鬱で、子育てが大変で言葉が通じないという話。
- 帰園時間になると「泊めてもらえませんか」電話がかかってくる。「夕食をお願いします。」
- Sちゃんは、職員の家を転々としたため、これでは安定した暮らしができないと思いつき、根本的に暮らして立て直すためにお母さん入院治療を進めました。反対はあっても毎日Sちゃんが面会に行けるといふ条件でやっと承諾してくれました。

4人の子どもを育てる

- いいよ 里親生活が始まりました。
- これまで3人の子どもを保育園で育てたよ、その延長線上でSちゃんを児童発達支援センターに連れて行って、夕方帰るといふ日々。
- 次に来た自閉症スペクトラムのKちゃん
- 赤ちゃんからYちゃん⇒今も委託中（専門学校1年生）
- 高校生になってから来たYちゃんのお姉ちゃん
- 児童相談所・札幌市の児童精神科・むぎのこクリニック・保健センター等

里親になるにあたって心に決めたこと

- 子どもの前では、専門家にはならない
- 青山学院大学 庄司先生との出会い「こんな家帰りたくない」という里子のエピソードを聞く
- 大学院で出会った友人「養子縁組里親さんのところで幸せに育てられたの。」「だから辛かったの」
- 「子どもがリラックスして、「こんな里親！」と子どもが「ノー」と言える立派じゃない里親になる

働きながら里親を続けてこれた理由

- 里子は社会の子ども一社会的養護
- いろんな機関やいろいろな人に堂々と助けを求められることが出来た。
- 里子のおかげでいろいろな人とながりがり子育てすることが出来た。
- 一基本みんな子育てを応援してくれる人
- 一無理解なことや合ったときや子育てで大変な時は、安全な人に話してきた。(私の場合は職場の同じ里親さん)
- 障害がある子どもだったので障害のある子どものサービスを利用了。→今は発達に心配のある子どもが増えている。

医療型児童発達支援センター

児童発達支援センター
困り感の高い幼児期の
子どもと家族のための
子育て支援センター



福祉型児童発達支援センター



-乳幼児期の発達支援- すべての子どもに 必要な事

- 乳幼児期は、養育者との愛着関係の形成が大切
- 障がいのある子どもも同じ
 - 一安心感信頼感の基礎 一生の土台一
- 愛着形成に課題のある子どもも
- 基本的な信頼感
 - 一大人はいいことやってくれの人一
 - 一生理的・感情的に一致一
- 子どもの可能性は、信頼する大人との間で拓く

子どもへの発達支援一朝の会



毎日のリズム運動



友達やお母さんとの楽しい日々の積み重ね

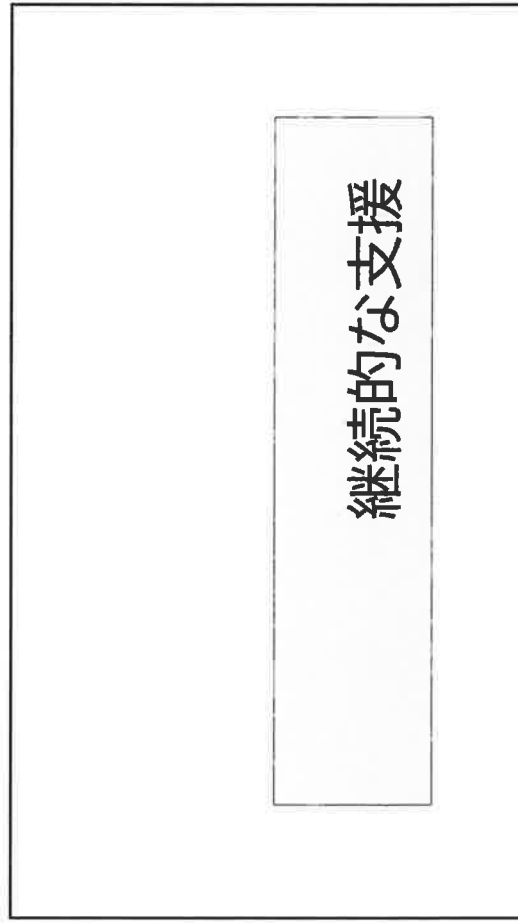


生活発表会

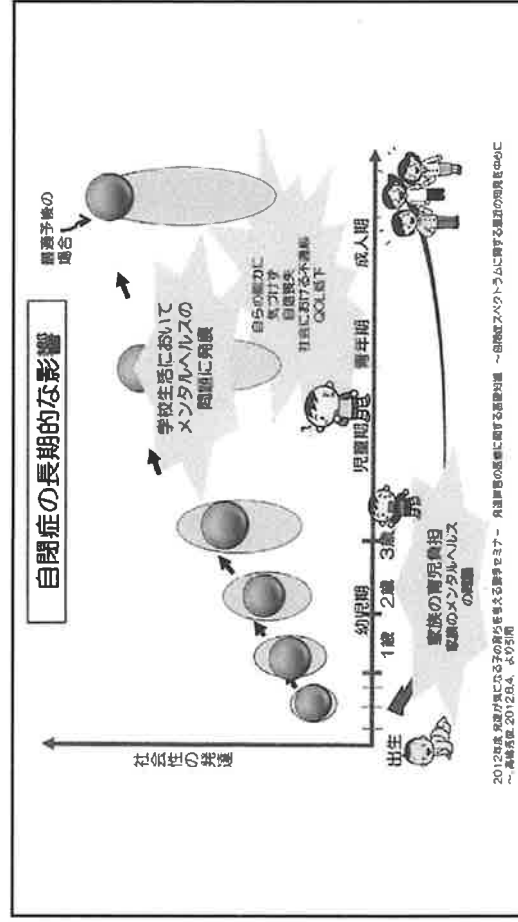




親子発達支援の像に行う、お母さんと発達心理士、臨床心理士とのカンファレンス



継続的な支援



思春期の主な困り感

朝起きれない・不登校

暴言・暴力

学力不振・過剰な自衛企図

外傷性ストレスに対する対応

思春期の支援大人への移行期 一放課後等デイサービスの利用

親離れへの挑戦

一人になるにあたって
の大切なことは、友達・
仲間
の存在

☆成し遂げるよるこび
☆友達・大人に褒めて
もらうよるこび

☆孤立をふせぐ
☆仲間の存在
☆グループ活動



フレーム館



H27年12月7日撮影

朝から開所の 事業所

【フレッシュ】 定員10名 3年生	【フレッシュ】 定員10名 5、6年生	【フレッシュ】 定員10名 1年生	【フレッシュ】 定員10名 1年生	【フレッシュ】 定員10名 2年生	【フレッシュ】 定員10名 1年生	【フレッシュ】 定員10名 2年生	【フレッシュ】 定員10名 小1～6
【フレッシュ】 定員10名 3年生	【フレッシュ】 定員10名 5、6年生	【フレッシュ】 定員10名 1年生	【フレッシュ】 定員10名 1年生	【フレッシュ】 定員10名 2年生	【フレッシュ】 定員10名 1年生	【フレッシュ】 定員10名 2年生	【フレッシュ】 定員10名 小1～6

自立のためのスキル 「料理」



いろいろな経験



様々な貴重な体験—木こり



学習支援—仲間と共に



子どものトラウマワーク



子どもが困っているなら、
学校にも支援に行く



宇野樹も顔の存在が大切ー親子運動会



お母さん、
家族を支える。



なぜ
家族支援が
大切なのか

子どもを救うためには、家族が救われなければならない。
(ネウボロ保健師の言葉)

お母さんをサポートする事で、
子どもも育つ

お母さん
の手記

つらかった。何度も死のうと思った。育てていかなければならないと思うと、この子がいなくなったらという思いが交互に起きた。

夢であってほしい、朝目覚めたからお医者さんが来て何かの間違いだったと言ってくれるはずだ。

なんで私なのつらい。どうやって生きてけばいいの。生きていけない。でもかわい。幸せを感じるはずだったのに。

私の人生も終わった。

両親にも悲しい思いをさせてしまった。

子育ての不安と孤独・心壁、相談支援の必要性



グループカウンセリング

個別カウンセリング

トラウマワーク

カップルカウンセリング

お母さんピアカウンセリング

ペアレントトレーニング

自助グループでの語り

- 当事者として
- アルコール依存症の父・暴力の毎日
- 虐待された経験（身体的・性的）
- 親のコントロール
- 宗教自助
- 癮自助
- DV自助
- 同じような経験をした当事者が語り合う。自分だけではなかつた。自分は悪くない。生きるのに値する。→社会的養護経験者にも共通

【生活支援】ホームヘルパー（ケアワーカー）



【生活支援】ショートステイホーム（一時保護の子どもも一期に



24時間緊急携帯

育児の
大変さを支える



相談/家に行く

子ども達にもお母さんにも一発達障害の子どもも里子も皆がそれぞれに育つ環境をつくる

- 子ども達の育ちで、辛くなる可能性もある。一人間関係がうまくいかなければ、能力的にもついていけない。いじめの被害者等、自己肯定感が下がったりやすい。
- お母さんたちも孤立しがち。同じ仲間で支え合ってーコミュニケーション
- どんな状況でも、一人ひとりのニーズをキャッチして、必要なことを行う。
- 「自分には失き愛するのには値する人間です。自分はそのままでいいのです。自分愛するのと好きになりません。』西尾和美

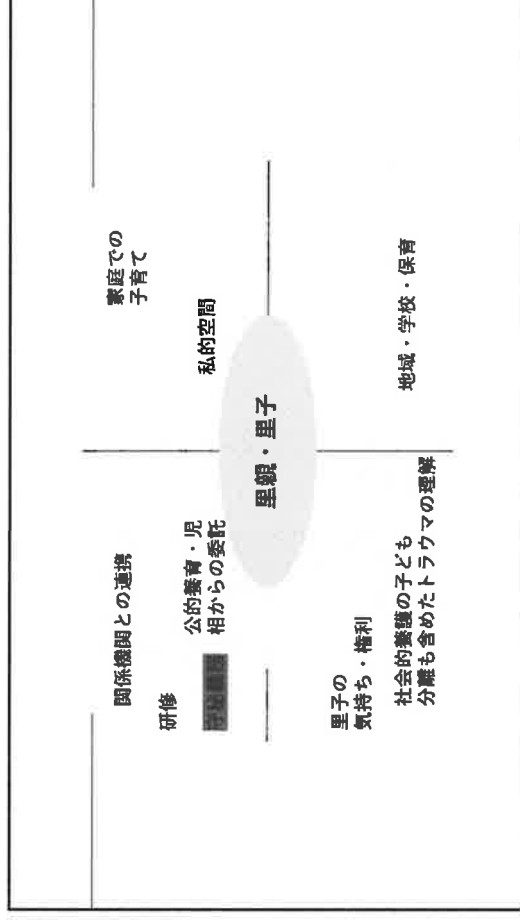
アメリカの里親支援との出会いー2005年

- 里親を続けながら大学院で学んだ。アメリカの臨床心理大学院（オンライン）と1回の対面、夏休みの集中講義
- アメリカでの学びが様々な文化の違いージャッジではなくケア
- 里親支援機関ー里親へのセラピー、子どもへのセラピー、関係性への支援が定期的になされた。
- また障害のある里親さんや、LGBTの里親さんへの支援もあった。
- 「いつか日本にもこんな仕組みができれば」
- シカゴの里親支援機関アタッシュメントにセラピーを受けるために子どもを連れて行ったこともあった。



里親会についてー里親のコミュニティ

- 20年前の里親会は、働いている里親は、入れない雰囲気があった。(日本全国 子育ては母親の責任時代) 多様性がま
- 働いていない里親は、十分ではなかった。
- 里親会の意義を感じて、少しずつ、参加していった。
- 子どもの最善の利益のためにー里親のための里親会ー里親コミュニティ
- 里親とは一子ども深いところにある悲しみに寄り添って、子どもが肯定感が持てる暮らしを創る。
- せつかく里親を生き方として選択した方が、辛い状況にならないように、
- 子育てで困った時のピアな仲間としての相談
- 子どもが守られて、里親が守られるために
- 子どもを養育する里親も里親とSWとFS機関などと共に、子どもを守る
- バネト子としてそれぞれ役割を担いながら位置づけられるために。
- 里親のアドボケーターとして



子どもと共に、里親へのアドボケイト

- 20年という間に、里親は、大きく変わった。
- 里親の立場な弱いものであった。意見を言う子どもと子どもが委託されな
- いことがほとんど常軌的に考えられていたし、事実でもあった。
- 施設養護中心の時代は里親は社会的養護において、必要だければ、
- 必要とされない部分があった。
- 実際エピソードー特別養子縁組になぜならない？
- 里親は「お金のため？」「お金もらっているんでしょ？」
- 里親制度は本来の意味で子どものための制度と意識されたのは、社
- 会的養育ビジョン以降と感じています。

むぎのこの社会的養護の必要な子の支援

- 里親ファミリーホーム (4軒) 定員6名×4 = 24名
- 里親21名、子ども48名
- 乳幼児～専門学校生まで：ほとんどが発達に心配のある子ども
- 被虐待児・知的障害児・自閉症児・発達障害児
- 摂食障害・愛着障害・施設で不適応の子ども等
- 地域住んでいろいろ困り感のある子どもと家族と共に



4つのファミリーホームを創った理由

- むぎのこの基盤が、障害児支援なので、障害のある子どもどもが委託されることほとんどであったため、重度の自閉症の子どもを育てている里親家庭を見て、里父・里母だけでは大変。そこで、補助者のいるファミリーホームを創って、子どもの養育が少しでも手厚くなるように考えた。
- 現在、法人として6人の子どもが住むファミリーホームが現在4つあります。
- 【課題】ファミリーホームは、措置費が常勤1、非常勤2で、6人の子どもを見ながら事務運営もするという課題がある。
- 4人の子どもがいのではないか。

ケアニーズの高い子どもたち

- 児童相談所から子どもたちの委託が増えてきた、そしてケアニーズの高い子どもたちの委託も増えてきた。
- 子どもの経験した悲しみ—「どうせ捨てられるなら私の方から捨ててやる」
- 暴力や暴言などが、多い日々の中で
- 少しずつ変化していったが、

里親をやめたい

- ある男の子がフロントガラスを割り
- 里父の肋骨が3本折れてしまった。こんな子どもは見れない。
- →「もう里親は続けられない」
- 里子を他の職員が**あ**ずかった。里親さんがレスパイトして、心身に休める場所と時間が必要だった。
- もう一度受け入れる決心をしてくれた。
- 里子と里親との約束を、職員も入って取り交わした。

里親としての喜び

- 続けてよかった。
- **あ**の時、さよならして最後まで育てなかつたら、彼の成長したいという思いや彼の内面に眠っている良さに気づけなかった。
- 本当は優しい子だった。これまで苦勞が信頼できない大人や社会に**対**して、行動として出ていただけなんだ。
- いろんなことを教えてくれた。自分はわかっていると思っていた。子どもの方が人生を知っていた。
- この子を育てて、初めて協力するとか助けてもらうということが出来た。人を信頼できた。→私も困っている里親さんを助けたい。

Muginoko E Rの必要性

- 暴力が出たり、大変な状況になったまぎのこの職員が駆け付ける
- こども・里親の話を聴く
- ト라우マ経験にできるだけならないように壊れたものをかたづけ
- 失踪した時は、50人体制で探す。

地域で支えるおばさん達とのお誕生会



障害のある子どもも里親家庭でプロジェクト



障害のある子どもと里親さん



抱え込まない専門性（横堀）

障害のある子どもと家族・里親家庭

社会が全ての子どもと家族を温かくつつむ



ポピュレーションアプローチ

手厚い子育て支援・家族支援
— 一障害のある子ども・社会的養護の必要な家族への支援 —



支援をうける側から
支援する側へ
癒された人が
癒し人へ

— 子育ての循環 —

子どもが大きくなって、
里親や他の子を育てる
部署で働いてくれてま
す。

幸せはどこに

人、皆、幸せな人間です。自分自身も、他人を幸せにする。価値観が違って、考え方が違っても、幸せを感じることができる。誰かのために生きていくことが、自分自身を育てることに繋がります。

・ 幸せは、自分が幸せになること、そして、他人を幸せにすることです。価値観や考え方、生き方が違っても、幸せを感じることができる。誰かのために生きていくことが、自分自身を育てることに繋がります。

・ 幸せは、自分が幸せになること、そして、他人を幸せにすることです。価値観や考え方、生き方が違っても、幸せを感じることができる。誰かのために生きていくことが、自分自身を育てることに繋がります。

自立に向けて—いつでも支えが必要

- ・ 人と人とでは、社会的養護の子どもの自立は、一人でなくてもで
- ・ 自立とは、依存先を増やすこと
- ・ 希望とは、絶望を分かち合うこと
- ・ 自立とは、社会的養護の子どもの自立は、一人でなくてもで
- ・ 希望とは、絶望を分かち合うこと
- ・ 自立とは、社会的養護の子どもの自立は、一人でなくてもで
- ・ 希望とは、絶望を分かち合うこと

S君との最後の日



里親は、子どもと向かい合い、実親との分離などの分離などの悲しみにある一人一人に生まれて良かったよ。愛するに値するに値するよ。一苦勞を引き受けて共に生きる

すべての子どもは社会の宝

子どもを育てるためには、地域みんなでの力が必要。

子どものために一母子保健・保育・社会的養護施設・障害児関係者・医療・教育・行政みんなでをつないで！

- ・むぎのごお母さん・子どもの苦勞と共に生きて来たエピソード！
- ・親の宗教や薬物依存の中で生き抜いてきたママたち
- ・里子たちの思い。

子育ての村ができました！

子育ての村 むぎのごお母さん 子どもたち

